

**平成29年度第2回
福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生有識者会議
議事概要**

【日時】

平成30年3月27日(火)午後1時30分～午後2時45分

【場所】

ハピネスふくちやま 会議室1

【出席者】

別紙のとおり

【事務局】

森田理事、大橋経営戦略課長、伊達係長、市田

【会議の概要】

- 1 開会
- 2 あいさつ(伊東副市長)
- 3 委員及び事務局職員の紹介
- 4 福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生総合戦略等の概要について
- 5 平成30年度福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生総合戦略アクションプラン(案)等について
- 6 質問・意見
事務局から、福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生総合戦略等の概要及び平成30年度まち・ひと・しごと・あんしん創生総合戦略アクションプラン(案)等について説明後、各委員から意見をいただいた。
- 7 閉会

【主な意見】

(委員)

- ・基本目標Ⅰにある福知山アーティスト・イン・レジデンス事業は、良い事業であると思う。平成30年度もぜひ続けてほしい。アーティストが、山間地域でインスピレーションを受けて作品を作っているということは、山間地域へも人が流れているということだと思う。
- ・基本目標Ⅱにある福知山公立大学「知の拠点」推進事業について、新町商店街にできるまちかどキャンパスには期待している。福知山での日常の生活が楽しいということも大切だが、新しい知識や知見を得られる場がほしい。まちかどキャンパスを中心に若者が活動できる場があればよい。ただ、公開講座に誰を講師として招くかが重要である。一般の方が聞き

たくなる話をしてくれる人であったり、福知山市が進もうとしている方向に合った人を呼んでほしい。人選びにセンスが必要となるが、よろしくお願ひしたい。

- ・K P Iについて、基本目標Ⅲの「子どもが育てにくいと感じる保護者の割合」、基本目標Ⅳの「自家用自動車を利用しない市民の日常移動に対する満足度」の調査対象は誰なのか。調査の対象が、中心地の人のみであるとしたら、山間地の人も含めないと調査の指標として正しいと言えないのでは。
- ・「いがいと！福知山」のPR動画は良いと思う。鬼や神社を推しているのが良く分かるつくりになっている。アクションプランについても、PR動画のように福知山市として打ち出すものが明確になっているとよいと感じる。

(事務局)

- ・まちかどキャンパスについては、来年度早期に開設する。まちづくりをメインとする講座もあるが、生涯学習講座についても検討している。福知山公立大学とも打合せをしたい。
- ・PR動画を観光と結びつけるかを考える必要がある。来年度の地方創生交付金の活用に向けて、観光地域づくりセンターと議論をしていきたい。
- ・K P I「自家用自動車を利用しない市民の日常移動に対する満足度」については、観光客目線で徒歩での回遊性の向上を意図している。
- ・K P I「子どもが育てにくいと感じる保護者の割合」については、これから子どもを持たれる人へのアンケートによりデータを取っている。4月1日に子育てワンストップ総合窓口を開設することもあり、妥当な指標であると考える。

(委員)

- ・例えば、雲原だと交通の便が悪く、保育所や学校が遠い場所にある。中心市街地でアンケートを取ったら、割合が下がるのは当たり前である。山間地域の人にも意見を聞いてほしい。

(委員)

- ・会議の時間が短くて、十分な意見交換ができない。次回の会議の持ち方について、検討をお願いしたい。
- ・市役所の担当部署が、農業振興課なのか、産業振興課なのか住み分けがはっきりしておらず、市役所からも明確な説明がない。市役所からは、産業支援センターに相談に行くように案内されたこともあり、担当がはっきりしない。
- ・産官学連携にぜひとも金融機関を加えてほしい。

(副市長)

- ・産業支援センターとの関係や市役所における農業の担当部署について、不十分な点は相談させてもらいたい。

(委員)

- ・福知山市を一企業として考えた場合、アクションプランが細かすぎるように感じる。
- ・市をPRすることは大切であるが、定住という観点からは、安心や利便性が重要である。観光で人を呼ぶこと以外にも、福知山市の肝いり施策として、30年後の子どもたちに引き継げるものをつくる必要があるのでは。

(事務局)

- ・長期ビジョンとして未来創造福知山の中に記載されている。地方創生交付金をいただいて事業を執行するという都合上、皆様に個別事業の展開について細かに説明させていただ

ている。

(委員)

- ・海の京都に関して、福知山市は5市2町の中で予算が一番低い。観光については、マンパワー不足で、職員の方にもお願いできない。観光を推進するには、人・モノ・カネが必要になってくるので検討をお願いしたい。
- ・ワールドマスタースゲームについても大きなイベントであるので、アクションプランで言及してはどうか。
- ・今回示されたアクションプランは、大変見やすい。市民に対し明確に伝わる情報発信が必要である。ホームページでも市民の目につきやすいところに掲載してほしい。

(委員)

- ・福知山城での忍者体験は面白いと思う。京都市内では忍者スクールが流行っている。せっかくお城があるのだから、福知山市もやってみては。
- ・三和のお試し住宅については、少しずつではあるが成果が上がっている。昨年度に入居された2組はいずれも三和に移住を決められた。今回も三和に来たい方が申し込まれている。
- ・農家民宿については、府も後押ししておられ、関連セミナーも増えてきている。中には経営が厳しい民宿もあり、数が増えれば良いというのではない。市からも経営について支援があればと考える。
- ・三和にできる小・中一貫校の新校舎のために3億もかけるのは、この少子化の時代に大変驚いた。子育て世代として、ハコモノにお金をかけるのではなく、安全な遊び場の確保や本の購入に当ててほしい。

(副市長)

- ・お試し住宅が良い評価を受けてありがたい。
- ・お城での忍者体験については、現在でもお城で色々と体験できるようにしている。単に歴史資料館としてではなく、有効に利活用して観光資源としたい。
- ・小中一貫校の新校舎建設については、1校にすると教室が足りないこともあり、PTAからも要望があった。現在ある校舎についても、有効に利活用していきたい。

(委員)

- ・JR京都駅にある旅ナビにおいてある福知山市のパンフレットにコンセプトがない。インバウンドもほとんどが、大阪や京都市に持っていかれている。海の京都と森の京都をひとつにまとめて、福知山市を中核都市として売り出す施策を検討してほしい。
- ・アクションプランにある「駅正面リニューアル事業」について言えば、感覚として、半年前よりも空き店舗が増えたように思う。イベントを実施しても、当日限りである。地方創生を進めるうえで駅前の利用の仕方が寂しい。子どもが裸足で遊べるようなスペースなど、人が毎日来る場所を駅前につくってほしい。

(事務局)

- ・旅ナビにはたくさんパンフレットを出したいが、スペースに制限があり難しい。

(副市長)

- ・他市町のパンフレットを見ると、コンセプトを決めてワンポイントでPRしているものもある。「福知山市は何でもある」というようなパンフレットになっているので、どのようなパンフレットを置くかが重要であることについても担当課に指示している。

(委員)

- ・テーマがはっきりしているパンフレットは、ホテルにおいても手に取ってもらいやすい。

(委員)

- ・各テーマによる部会を持つのはどうか。全体会議では、つめた議論ができない。

(副市長)

- ・部会を設置するのか、会議時間を延ばすのか、次回の会議の進め方については考えたい。

(委員)

- ・京都のホテルに営業をしているが、福知山市と取引している例がなく、福知山市のPR不足を感じる。特急列車の車両パネルに福知山市の産物が載っていない。福知山市をPRしていかないと置いていかれる。福知山市を紹介するものをPR戦略に入れてほしい。